

福井県で初めての紙芝居授業！

「青少年すこやか育成事業」の一つとして実施している、オリジナル紙芝居を使った道徳のモデル授業。平成29年度最初の授業は、福井県の越前町立織田小学校の2・3・5年生で実施しました。

県内で初めてのモデル授業ということで、当日はFBC（福井放送）のカメラ取材もあり、子どもたちは少し緊張した面持ちです。そんな中、講師の宮島盛隆先生は「授業で大切なことは人の話をよく聞くこと。そして、自分の気持ちをわかってほしければ、相手に伝わるように話すことが大切」と話します。その言葉を聞いた子どもたちは、すぐに授業に集中し、しっかりと友達の話聞き、自分の気持ちをきちんと伝えようと一生懸命に授業を受けてくれました。

地域の大人が子どもを育てます！

実は子どもたちが緊張していた理由はもう一つ。今回の授業には、たくさんの見学者がいたのです。

子どもたちの成長を楽しみに、自分たちに何ができるかを考えてくれている地域の皆さん、そして越前地区の近隣の小中学校の先生方です。織田小学校の先生方も含めると、その数、なんと3時間の授業で総勢40名以上！



熱心にメモを取る先生方



「人の話をしっかり聞くことが大切」と講師の宮島先生

平成30年度からの道徳の教科化を目前に、先生方は特に熱心にメモを取ります。どうやって子どもたちの気持ちを引出せばいいのか、宮島先生の言葉に耳を傾け、時には子どもたちと言葉を交わしながら、真剣なまなざしで授業を見学していました。

子どもたちが、素直にまっすぐ自分の気持ちを表現できるのは、自分たちのことを真剣に考えてくれる大人たちに囲まれているからなのかもしれません。のんびりと

したやさしい空気の中に、熱い思いを感じた授業でした。

越前町支部
杉森正義代表の
お手紙より

正直、道徳というのは、字句だけ見ると概念がつかみきれませんでした。最近ではやさしさ、絆、おもてなし、などがよく使われますが、それが到達点ですというのは、自分では少しばかり「？」でした。

それが、今回の授業でなるほど！と。道徳とは、自分と他、あるいは人と人との「関係」を大切に、情報（言葉や表情、行動など）をどう発信し、受け止めていくかを考え、それを習慣として身に付けていく、そういうことなのではないかと思いました。

織田小学校はこんな学校

織田小学校は以前、越前二の宮である劔神社にほど近い場所であり、約20年前に現在の場所に移転



校門の先に見えるのは木造の音楽室

してきました。

地域の「子どもたちにより良い環境で学んでほしい」「新校舎はぜひ木造にしてほしい！」との願いで、現在の木造校舎が出来上がりました。

この辺りは越前焼や越前瓦の産地でもあり、学校の屋根にも伝統の瓦が使用されます。



校舎の中に太鼓橋！

この校舎にも、子どもたちを想う大人の気持ちがたくさん詰まっていました。